

三十五回 〇〇〇〇〇〇〇〇〇

榊原 化粧坂

松山 和雄

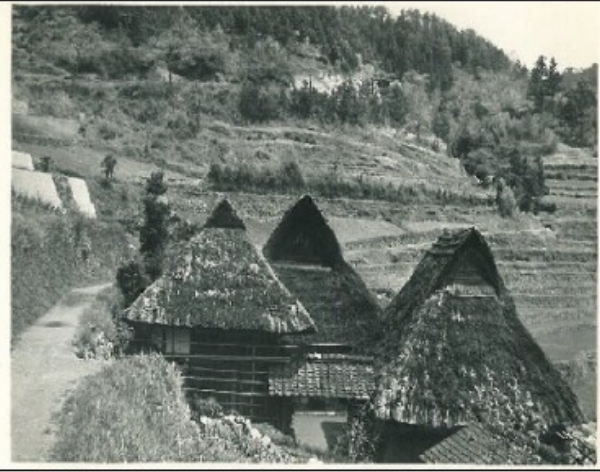
私の初任地は当時四国のチベットと言われた榊原だった。はじめ、バスに乗り榊原に行った時のことはよく記憶している。

須崎から先はほとんど舗装のない山道を、バスに揺られて布施ヶ坂のトイレ休憩のころにはひどい車酔いになってしまった。そこからさらに一時間弱。やがてバスは町の入り口の峠を過ぎ、最後の大きな曲りを二度三度と大きく切り返して急な坂を町に目がけて降下して行く。ひどい車酔いの中でも、四方八方を山に囲まれて霧のベールに包まれた町の景色は幻想的に見えたものだった。

そんな榊原に赴任して三年目のこと。私は愛用の「ニコンF」を肩に下げて、茅葺民家の写真を撮りに出かけた。当時萱葺きの屋根は特に珍しいものではなく、町中でもすこし足を延ばせばそこかしこに見られたものだった。

いくつかの家をフィルムに収めて、街の入り口の峠のそばに建つ御茶堂で一休みをしていると、あちこちの山で植林作業をしている。そんな「高度成長」の真っ盛りの時期のこと。

お茶堂をあとに、小さな水路に沿った化粧坂と呼ばれる



緩やかな道を一筋に下ってゆけば、学校の建つ石垣の下まで来る。

二月末の早い夕暮れ時、坂の下からギターの軽やかな音が聞こえてきた。薄暮れの中を見れば、石垣の下の家の軒先で、県外就職が決まった三年生の「タクミ」君がギターを膝に弾き語りをしている。初めて聞く旋律は優しく美しく、そしてとても切なく聞こえた。私は隣に腰をかけ、しばらく耳を澄ましていた。やがて「タクミ」君は譜面台を少し斜めにして、「先生も歌わんかえ・・・」と誘ってくれた。私は譜面をのぞきこみ、「タクミ」君の後ろを追い少し遅れて小さな声で歌いだした。

イムジン河
水清く滔々と流る
水鳥自由に
群がり飛び交うよ
わが祖国南の地
想いははるか
イムジン河
水清く滔々と流る

夕冷えのせいかも知れないが、これが歌を聞いていて鳥肌が立った最初の体験だった。四十五年ほど前の卒業式の前日のこと。

化粧坂という名称のいわれには、戦国の世に政略結婚でこの地に嫁いだ伊予の姫にまつわる望郷の悲哀の物語があると知ったのはそれから数年の後だった。

会員の皆様方へお知らせ

不意の怪我や病気で二週間以上の入院を余儀なくされた方には、少額ですが、会員の福利厚生としてお見舞金をだしています。ぜひ、ご連絡ください。

蔵王温泉スキーツアー報告①

三々五々に雪山を楽しんだ

橋元陽一



今年、モンスタアの姿を見ることができるとの知らせが、かなと不安を抱えながら、蔵王山形へ伊丹経由で、仙台空港へ向け飛び立った。当初は伊丹まで車で分乗してと、前泊してと少しだけ揺れ動いたが、みんなの体力も配慮されことから、高知から飛行機を利用しての楽しく愉快なツアーになった。参加は女性5名、男性8名の少数精鋭？

仙台空港から蔵王スキー場まで利用したシャトルバスの中で、バスカーボン券は往路のみしか手渡されておらず、ガイドさんにも復路のバスはどうするのかとライワイ。渋々差し出されるクーポンを回収するガイドさんの笑顔が何とも言えなかった。



霊山にある蔵王温泉への登山口の鳥居をくぐって3時前にホテル「ル・ベール蔵王」に到着した。ガスがかかり、あまり状況がよくなさそうな中、早速山歩きと撮影グループ、グレンデへとそれぞれ下見。夜はなべ料理を囲んだ。松山さんの妻明代さんの誕生日をサプライズでケーキとパースデーソングで盛り上がった。料理も美味しく温泉は身体

りを兼ねて寺社を探索された松山夫妻。11名はタクシー3台に分乗して榊並木通り、仙台城、瑞鳳殿、復興作業が進められている海岸道路を経由して仙台空港に向かい、帰路についていた。道中はいつも笑いが絶えない愉快な旅でした。雪山を歩いて楽しめた旅日記が次号に掲載されますので、お楽しみに！
(6面にスキーツアーの写真掲載)